



歯科衛生士のための
補綴科アシストハンドブック

宮田孝義
三浦英司

学建書院

咬合採得

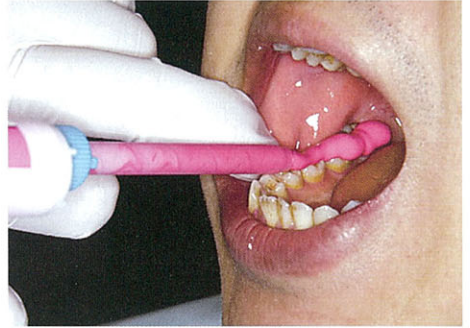


メモレグ 2



コレクトプラス

付加型シリコンの咬合採得材



下顎歯列の咬合面にバイト材を注出し、咬頭嵌合位(奥歯)で咬んでもらう

コレクトプラスは硬化時間が短いので注意する
(操作余裕時間 30 秒、口腔内保持時間 45 秒)



シリコンパテタイプの印象材を用いて咬合採得を行う場合もある

左から、シリコンパテタイプのバイト
築造窩洞のシリコン連合印象
対合歯のアルジネート印象

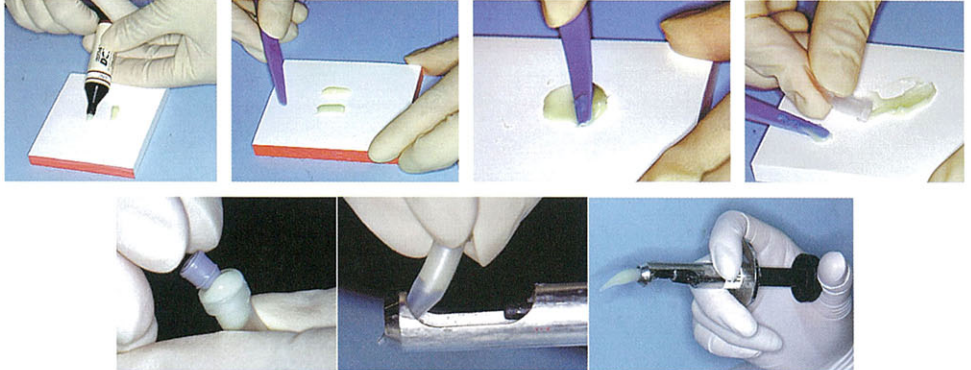


レジンコア材料

レジンコアの製作や、できたコアの接着に DC コアを用いることが多い
オートミックス ベースとカタリストを混和する必要がない



従来型 ベースとカタリストを等長出し、スパチュラで混和後、シリンジに入れる



歯面処理剤(ED プライマーII)と
 ボンディング剤(フォトボンド)
 ボンディング材は使用する直前に出す

光照射器
 (コードレス)



Q
 DC コアの
 DCって
 何のこと?
 答え →p70

パテタイプを用いた連合印象

パテの練和は、プラスチックグローブか素手で
ラテックスを用いるとパテの硬化が阻害される



計量カップを用いて、指で擦り切る

1 回法

- インジェクションやレギュラータイプの印象材を練り、シリンジに入れて術者に渡す
- パテを練り、トレーに盛ったら、その上に残ったインジェクションを盛り、術者に渡す



指先を用いて、折りたたむように練和する
(手の熱で硬化しないように指先で)

均一になったら手の平で伸ばし、気泡を抜く

ロール状にし、トレーに盛る

レギュラータイプ印象材を盛る

2 回法

- 一次印象でパテを練り、概形印象を行う
- 二次印象は、インジェクションを練和後、先にシリンジを術者に渡す
- つぎに、残った印象材をパテの上に盛り、術者に渡す



金属接着プライマーと歯面処理材

金属接着プライマー

レジンセメントを用いて、メタルコアやクラウンを合着する際、金属に塗布する金属部分は、サンドブラスト(アルミナ)処理を行ったあとにプライマーを塗布する



V プライマー：
貴金属(スーパーボンド)



メタルタイト：
貴金属(金銀パラジウム合金, 白金加金, 14K合金など)



メタルプライマーII：
金属全般(貴金属, Co-Cr合金, Ni-Cr合金, チタンなど)



アロイプライマー：
金属全般(パナビア)

歯質の表面処理材

エナメル質と象牙質の場合では、処理材や処理時間が異なるさらに、歯質の汚染状態によっても異なる

パナビア F2.0 の表面処理材



ED プライマーII
A 液と B 液を混和
エナメル質も象牙質も一緒
水洗しない



K エッチャント(リン酸)
10~20 秒間放置
水洗, 乾燥



AD ゲル(次亜塩素酸ナトリウム)
リン酸と併用し,
象牙質への接着力を高める
60 秒間放置, 水洗, 乾燥

スーパーボンドの表面処理材



表面処理剤レッド：エナメル質
30 秒間放置, 水洗, 乾燥



表面処理剤グリーン：象牙質
5~10 秒間放置, 水洗, 乾燥

**K エッチャントと
AD ゲルの適応**

- 仮封材により象牙質が汚染されている
- 象牙質が変質している
- 高い接着維持力が必要

概形印象採得

既製トレー

有歯顎用トレー



無歯顎用トレー



モデリングコンパウンド用

アルジネート用

局部用トレー



前歯部用

片顎用

1 歯用

ノンメタルクラスプデンチャー

金属製のクラスプは審美性に劣るため、これに代わり柔軟性に富む義歯床材料を用いた義歯

- 鼓形空隙や歯頸部のアンダーカットを利用し、義歯を維持する
- 材料はナイロン、ポリエステル、ポリカーボネイトなど
- ナイロン樹脂は柔軟性に富むが修理が困難である

ナイロン樹脂製義歯



金属製のクラスプがないため審美性に優れている

金属レストを併用したポリエステル製義歯

46 欠損に装着したノンメタルクラスプデンチャー



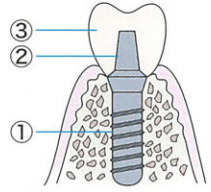
義歯の沈下防止にレストは重要である
樹脂のレストでは簡単に破折してしまうので、金属製のレストを使用する場合もある

インプラント

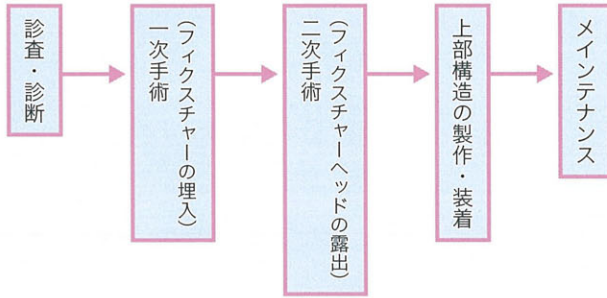
インプラントとは歯を喪失した部分に人工の歯根を埋入し、その上にクラウン、ブリッジ、義歯などの補綴装置で補綴する方法

構造は3つの部分からなる

- ①フィクスチャー：顎骨中に埋入される部分
- ②アバットメント：フィクスチャーと上部構造をつなぐ部分
- ③上部構造：アバットメント上に装着される補綴装置



治療の流れ



各種上部構造

義歯の場合(全部床義歯、オーバーデンチャーなど)



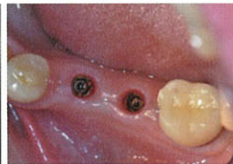
左からフィクスチャー、ボールアタッチメント、ボールアバットメント、ゴールドキャップ

ボールアタッチメント

上部構造のオーバーデンチャー内面に取り付けられたゴールドキャップ

口腔内に装着されたオーバーデンチャー

クラウン・ブリッジの場合(セメント合着タイプ)



フィクスチャーのエックス線写真

ヒーリングキャップをはずした状態

アバットメント(支台)

セメント固定されたクラウン(仮着用セメントを使用)

口腔内写真撮影のポイント

■ 正面観 ■ 当たり前だけど真正面から撮る！

第一小臼歯まで撮る

画面と口腔の正中を合わせる



画面と咬合平面を平行に

■ 咬合面観 ■

前歯が欠けないように

歯列全体を撮る

第三大臼歯が欠けないように



画面と正中(正中口蓋縫合)を合わせる



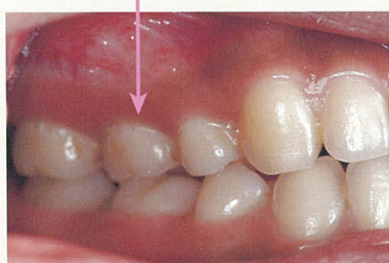
歯面に口唇が触れないように(口角鉤で口唇を少し前に引く)

咬合面に垂直(ミラーとの角度に注意)

■ 側方面観 ■ 真横から撮る！

ピントは小臼歯部付近

犬歯から撮る



咬合平面を平行に